

MARCH 2020 ISSUE #25



IRPA Bulletin

RP専門家による、RP専門家のための



本号の内容:

- 会長ブログ - 2
- 第15回IRPA国際会議 - 3
- 合理性と保守性 - 4
- 放射線安全国際会議：実用放射線防護の改善一要旨期日を2020年4月15日まで延長 - 5
- 国際非電離放射線防護委員会 (ICNIRP) による新しい無線周波数EMF (100kHz~300GHz) ガイドラインの刊行 - 6
- ポー・リンデルの放射線、放射能、そして放射線防護の歴史—第3巻 ヘラクレスの冒険 - 7
- IRPA若手世代ネットワーク (IRPA YGN) 私たちは今どこにいるのか? - 8
- 非電離放射線IRPAタスク・グループ - 9
- IRPA初期メンバーであるオーストラリア放射線防護協会 - 10

この"IRPA会報"の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

Your IRPA Commission on Publications

Chair: Christopher Clement; Vice Chair: Bernard LeGuen; Bulletin Editors: Chunsheng Li & Ali Shoushtarian; Associate Societies Liaison: Adelene Gaw; Website: Managers Andy Karam & Chris Malcolmson; Social Media Managers: Sven Nagels & Chris Malcolmson; Media Reviewers: Sven Nagels, Young-Khi Lim & Hattori Takatoshi; Proceedings Advisor: Haruyuki Ogino



会長ブログ

(ROGER COATES, IRPA会長)

私たちのほとんどがコロナウイルスへの健康上の懸念から仕事や旅行を制限されることで影響を受けている幾分世界が不安定な時期に、このブログを執筆しています。IRPA15国際会議も影響を受けており、2021年1月へ延期されたことがジョン・キムIRPA15大会長から知らされることでしょう。

これは同様に総会の延期と、それに伴う新たな執行部の任命、さらに新たなIRPAプログラムのスタートの遅延を意味しています。我々は1月までにお知らせできるように細かな調整を続けており、同時に現在の作業プログラムを完遂するために最善の方法を調整しています。

最近では、放射線とリスクへの公衆との関わりに向けたIRPAガイダンスの準備に、多くの努力を費やしてきました。多くのワークショップ、レビューセッションや加盟学会（AS）との協議の開催、ガイダンス刊行に向けた準備が続けられており、初秋には刊行されるでしょう。公衆との効果的なコミュニケーションは専門家にとって主要な課題であり、我々はみなそれぞれの役割を果たし、この重要な活動においてより主体的でなければなりません。

今期IRPAは、ICRPやIAEAといった要となる国際組織との関わりにおいて、より効果的であり続けました。このことは、防護体系がさらに検討されるにつれ益々重要となることでしょう。IRPAの‘実践者としての視点’は、今日ではよく評価されており、国際的なキープレイヤーによって積極的に求められています。ここでの一つの重要な活動は、防護の最適化における‘合理的’とは何かであり、それは同様にこの会報がカバーしています。

継続していくであろうもう一つの重要な活動は、‘我々の専門職の将来’を確保することへの挑戦です。世界中の多くの放射線防護加盟学会及び組織は、今後数年にわたる専門家の需要を満たすための適切な資格をもつ放射線防護専門家の可用性を懸念しており、幾つかの加盟学会は会員数減少を経験しています。現在の専門家の年齢構成にも懸念があり、かなりの割合が退職年齢に近づいています。幾つかのAS及び国内/国際組織は、この課題に対処するプログラムをもち、IRPAはアイデアを共有し最良の実践を見つける作業をしています。これらの課題を考えるNEAとのジョイントプログラムが進行中です。

当然のことながら、IRPAの若手世代ネットワーク（YGN）は将来の専門家としてこの活動の中心であり、12月に日本の仙台で行われたYGNワークショップには多くの国から幅広い若手専門家が参加してくれたことは素晴らしいことです。参加者の全てが、日本の専門家たちが直面している挑戦の規模を証明する福島第一原子力発電所とその周辺の避難区域への有益な訪問ができました。

IRPA会長を務めた4年間はわくわくしてやりがいのあるものであり、私には物事を前進させることを助ける役割を果たすための、予期していなかった余分な時間を与えられました。2021年1月にソウルで、できる限り多くの皆様とお会いできる機会が持てることを願っています。

AS: Associate Societies（加盟学会）



第15回IRPA国際会議

(JONG KYUNG KIM, IRPA15 大会長)

IRPA15の国際会議組織委員会（ICOC）は、COVID-19パンデミックによりIRPA15を延期することを決定しました。

元のスケジュールでは2020年3月11日～15日に予定されていたIRPA15は、2021年1月18日～22日での開催にスケジュールが変更されました。

会場ですが、COEXがIRPA15の会議場として変更なく、個々の会議室の割り振りに関する些細な変更については後ほどお知らせします。演題登録及び要旨投稿の期日は、新しいスケジュールに従い同様に延期します。

重要日程は次の通りです。

- ポスター発表の要旨投稿期日：2020年8月31日
- ポスター発表採択のお知らせ及びフルペーパー投稿依頼：2020年9月30日
- 事前登録（Early registration）期日：2020年10月16日
- 通常展示料（Standard exhibition rate）期日：2020年10月31日
- 通常登録（Standard registration）期日：2020年12月31日

演題登録及び要旨投稿のシステムは平常通りオープンしており、既に採択された要旨は延期された大会でのプレゼンテーションが認められます。同様に、我々は新たなポスター要旨の投稿も歓迎しますので、IRPA15へ是非ご参加ください。

ご不明点等ございましたら、IRPA15事務局へお問い合わせください。また、継続的に更新されるIRPA15公式ウェブサイトの更なるアップデートについては今しばらくお待ちください。

皆様が無事であり、この危機を乗り越えることをお祈りします。また、皆様が健康で、来年1月にお会いできますことを切に願っています。



IRPA 15
11-15 May 2020 | COEX, Seoul, Korea





合理性と保守性

(ROGER COATES, IRPA会長)

しばしば'ALARA'と略される最適化の原則は実用防護の中心であり、十分によく開発されたどの防護体系においても被ばくを制御する支配的な因子です。しかし、'合理性'の意味するところは何でしょうか？ 私たち専門家の間では、本当の意味での'合理性'というよりかは'出来るだけ低く'と'最小化'が重点に置かれていることに対して懸念が高まっています。

この目的のために、IRPAはこのコンセプトを探るワークショップを企画しました。フランスのSFRPと合同で2つのワークショップがパリで開催され、その成果はRadioprotection (1) に掲載されました。1月には、IRPAはリスボンで開催されたNEAワークショップ'合理性の技能 (art) 'に参加しました。再度、幾つかの事例検討が発表されましたが、IRPAは個々の事例検討から立ち戻り、合理性とは何かを考えるための枠組みを提供する一般的で基盤となるガイドラインを作成する適切な時期であると確信しています。それゆえに我々は、加盟学会 (AS) や要となる国際組織から幅広いコメントを求めるための短い参照文書を準備しています。

一つの重要な課題は、保守性についてです。最適化のプロセスが実際の線量評価に基づいていることは重要です。評価において、被ばくの有意な過大評価をもたらす多くの保守的な仮説を用いること、あるいは'最悪のシナリオ'を用いることは、リソースの誤配置に繋がるでしょう。3年以上前に保守性に関する文章を我々が発出してから、国際的なレベルで多くの場所に反映されていることを目にするのが素晴らしいことです。

別の主要な課題は、合理性とは何か、に関する我々の結論に由来する'お金の価値'について、広く世間に提供する必要があることを認識することです。これは、特に線量が線量限度もしくは参考レベル未満であるときに、我々のアプローチで比例して必要性を強化することにつながります。これは恐らく全ての中で最大の課題ですが、議論し続けることが重要なのです。

1.

<https://www.radioprotection.org/articles/radiopro/abs/2019/04/radiopro190045/radiopro190045.html>



放射線安全国際会議：実用放射線防護の改善 要旨期日を2020年4月15日まで延長 (SIGURÐUR MAGNÚS MAGNÚSSON, 大会長、IRPA役員)

放射線安全国際会議：実用放射線防護の改善が、オーストリア・ウィーンのIAEA本部において2020年11月9日から13日に開催されます。

このイベントはIAEAによって主催され、国連の食糧農業機構・欧州委員会、国際労働機構、経済協力開発機構原子力機関、全米保健機構、国連環境計画、世界保健機関が共催します。

放射能及び放射線源は、医療、産業、研究、農業、発電に広く用いられており、経済発展や人々の幸福への寄与に重要です。新たな放射線利用法が常に関係されており、これらの活動から個人と社会の両方、そしてリスクとベネフィットとの間での適切なバランスが維持できるように継続的に課題が提起されています。公衆の信頼を継続し、維持するには、電離放射線から職業人、患者、公衆及び環境を適切に防護することが必要です。

この会議での討議は、国際社会が取り組む必要がある放射線防護における新たな課題の特定と、同様にその解決策を探ることを目的としています。とりわけ放射線防護体系の基本原則（正当化、最適化、線量限度）、段階的アプローチの適用、現存被ばく状況の管理、ヒトへの非医学的なイメージング、放射線防護の保守性が、議論には含まれることでしょう。

要旨投稿の期日は2020年4月15日まで延長されています。

要旨投稿の手順など、会議の詳細情報は下記のIAEAウェブサイトをご覧ください。

<https://www.iaea.org/events/international-conference-on-radiation-safety-2020>

質問はこちらへどうぞ: RP2020@iaea.org

International Conference on
RADIATION SAFETY
Improving Radiation Protection in Practice
9–13 November 2020, Vienna, Austria





国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）による 新しい高周波数EMF（100kHz～300GHz）ガイドラインの刊行 （ICNIRP事務局）

国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）は、高周波電磁場（RF EMFs）へのばく露からヒトを防護するための新たなガイドラインを刊行しました。このガイドラインは、既存の3G/4G及び来たる5Gモバイル通信技術、同様にDABラジオ、WiFi、Bluetooth、レーダー、ワイヤレス給電装置を含む幅広い技術からのばく露をカバーしています。

1998年にガイドラインが刊行されて以来、初めての改訂です。その日以来、RF EMFsへのばく露によりもたらされる潜在的な悪い健康影響を同定し、品質を向上させるための広範囲に及ぶ科学研究の努力が存在してきました。これによりガイドラインの徹底的な更新が可能となり、現代及び次世代の技術の両方へ効果的に対処できる防護システムをもたらしました。

ICNIRP（2020）新ガイドラインの構成と制限の両方には、重要な変更点があります。構成の面では、ガイドラインの論理的及び科学的根拠に健康保護団体が関与しやすいように高い透明性の達成し、ガイドラインの遵守を評価する追加手段を記載、そして複雑なばく露シナリオの評価方法の詳細を明記しています。

制限の面では、ガイドラインが既存のRF EMFsへのばく露から防護するだけでなく、将来の技術発展からも防護し続けるようにするために多くの追記と変更がなされました。これには、身体中心温度の上昇を規制するため>6GHz EMFsの全身ばく露に対する制限の追加、局所温度の上昇を制限するため>400MHz EMFsの局所短時間ばく露（6分未満）に対する制限の追加、局所温度の上昇への制限に対して許可された>6GHz EMFsの最大局所ばく露の削減、が含まれます。

ガイドラインの全文はHealth Physicsに掲載されており（ICNIRP, Guidelines for limiting exposure to electromagnetic fields (100 kHz to 300 GHz), Health Phys 118(00):000-000; 2020）、ICNIRP.orgでもアクセスできます。ICNIRP（2020）とICNIRP（1998）との詳細な違いについては、下記URLから入手できます。

<https://www.icnirp.org/en/activities/news/news-article/rf-guidelines-2020-published.html>.



ボー・リンデルの放射線、放射能、そして放射線防護の歴史

第3巻 ヘラクレスの冒険

(CHRISTOPHER CLEMENT, IRPA PUBLICATIONS DIRECTOR)

ボー・リンデルの直接的な経験と科学的な正確さに基づき、彼の鮮やかなユーモアセンスというスパイスを加えた権威ある4冊のシリーズが、北欧放射線防護学会（NSFS）、北欧原子力安全研究（NKS）、北欧の5つの規制当局、IRPAにより共同で英文に翻訳されました。

現在、シリーズ第3巻、'ヘラクレスの冒険'が入手可能です。この興味深く、非常に読みやすい本は、ロルフ・シーベルトの業績と1950年から1966年までの著しい国際的沿革を中心に展開しています。原子力の進歩、核兵器の増加と地球規模での放射性降下物、原子力災害による放射性物質の重大な放出、放射線に関連した医学診断と治療の広範囲に及ぶ進歩、DNAの構造及び役割を含む広範囲に及ぶ科学的発見、全て愉快で示唆に富む逸話とともにボー・リンデル個人の物語として記述されています。この本は、下記URLより無料でダウンロードすることができます。

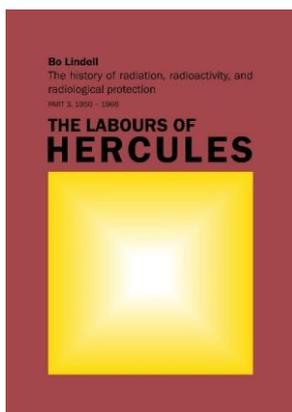
<http://www.nks.org/scripts/getdocument.php?file=111010214696626>

ハードコピーはアマゾンで入手可能です（www.amazon.com）。

初めの2冊、'パンドラの箱'と'ダモクレスの剣'は、古代ギリシャからX線利用初期までの放射線及び防護と医学やその他を目的とした放射能の歴史、そして最初の核兵器の開発及び利用についての記述をカバーしています。2冊とも、例えばJournal of Radiological Protection誌において絶賛を受けています。2冊ともNKSウェブサイトに投稿されたシリーズのレビューよりダウンロードが可能です。

<http://www.nks.org/en/news/bo-lindells-history-of-radiation-radioactivity-and-radiological-protection.htm>

最後の1冊（シーシュポスの神話）は現在、原稿におこしている最中であり、数か月以内に入手可能となるでしょう。





IRPA若手世代ネットワーク（IRPA YGN）私たちは今どこにいるのか？ (SYLVAIN ANDRESZ, AKIHIRO SAKODA, FRANZ KABRT, IRPA YGN)

2018年の新体制の実現以来、IRPA YGNは展望と目的に沿って今後数年間の活動にどのように取り組むのかを示すために、2018年から2020年の戦略的アジェンダを作成しました。この原稿は、網羅的ではなく、幾つかの重要な活動に絞った戦略的アジェンダの実現の実例を提供することを目的としています。

2019年に開始されたポートレート・イニシアチブは、IRPA加盟学会（AS）メンバーである若手専門家及び若手研究者からポートレートを集め、宣伝することを目的としています。具体的には、放射線防護における日常的な職務に関する質問、どのようにキャリア・フレームワークに適合するのか、職種の将来への展望と内省、がこれまでに起草されました。幾つかおかしな質問もありました。

これらは全て、若手の放射線防護専門家や研究者が閲覧可能であり、同様に情報提供と共有が可能です。既に集められたポートレートはIRPA YGNウェブサイトですぐ入手可能で、その目的は定期的に新たなポートレートを加えることです。

IRPA YGNは活気とネットワーク作りに限らず、より専門的で科学的な根拠に基づく活動に関与しています。二つの活動が、このことを示しています。

放射線防護の将来では、日本保健物理学会（JHPS）が、IRPAと日本放射線安全管理学会（JRSM）と共同で、2019年12月に東北大学において、‘放射線防護専門職の将来’についてのJHPS-SRP-KARP若手世代ネットワークジョイントワークショップを開催しました。このワークショップは、2018年3月にオーストラリアのメルボルンで開催された第5回IRPAアジア・オセアニア地区放射線防護会議（AOCRP-5）におけるIRPA YGNセッションで行われた過去の議論によってたぎつけられたものです。その目的は、若手専門家の積極的な参加を奨励し、若手の関心のある領域でのメンタリングスキームを確立することを助けるために幾つかのYGNの相互作用を促進することでした。ワークショップは、13の国から70名以上の参加者を集め、科学雑誌に統合された思案が掲載されることが期待されます。IRPA会報No.24で概況報告をご覧いただけます。

少し後の2020年1月に原子力機関（NEA）は、経験を交換し、異なる被ばく状況下での放射線防護をよりよく達成するための手法を見極め、状況（科学的、経済的、社会的、倫理的）に応じてどのように最善の方法で達成するのかを議論するためポルトガルのリスボンで3日間のワークショップを開催しました。

プログラム委員会は、若手世代の展望を含めることや新世代がテーマにもたすことができることを含めることに力を入れました。そのため、IRPA YGNメンバーイベントに参加することを訴えかけることになりました。ワークショップでは、異なる背景を持つ若手メンバーが出会い、トピックについて議論し、3日目には聴衆に彼らの知見を示すための本会議において若手専門家が一堂に会しました。

そこでは最適化を目的とし、革新的かつ最先端のツールを利用して調査することが決定されました。

ソーシャルメディアと他の最新のコミュニケーションツール：チェルノブイリ・TVシリーズが挙げられます。この形式は、放射線防護のトピックをカバーするかなり新しいものです。公衆の関心は、エピソードの掲載日に対応する放射線防護に該当するウィキペディア記事の増加したヒット率から確認できます。これは同様に放射線防護の異なる公共的な側面を示し、おそらく通常では考えられてこなかったものです。ソーシャルメディアはコミュニケーションのための重要な挑戦であり、これらのメディアとともに成長した放射線防護の専門家は、これらのツールを適切に使用でき、迅速で建設的なコミュニケーションを双方向で行うことができます。

クラウドソーシングと、それがどのように公衆と専門家の相互に利益をもたらすことができるのかについての調査：クラウドソーシングの一例は、他のユーザーのデータに基づき最適なルートを計算してくれるナビゲーション・システムです。誰もが原稿を執筆することで貢献することができるウィキペディアも同様にクラウドソーシング・ツールに属しており、チェルノブイリ・TVシリーズ公開後のヒット率解析がその利用例です。

人工知能（AI）と放射線防護におけるその位置づけ、特に複雑な状況下での意思決定のための位置づけについては議論され続けてきました。人工知能は、異なる様式のもとでは素晴らしい機会を提供しましたが、同様に新たな課題と倫理的判断をもたらしました。例えば、データの使用と透明性、所有権の決定といったものです。自動運転は、どのような疑問が出てくるのかの良い例です。

現状の課題は、聴衆との議論のための実りある基礎を提供します。新たな見解と反映された新たな意見のとても興味深い意見交換が重要でした。

概して、若いIRPA YGNメンバーにとってはとても良い経験となりました。彼らは、このような手段でワークショップへ貢献する機会を与えられ続けられることに感謝しています。

では次は？

IRPA YGNにおける次年のマイルストーンは、IRPA-15（韓国ソウル、2021年1月に開催延期）です。会議では、IRPA YGNは‘将来の放射線防護’と‘放射線防護における女性’の両セッションに貢献することでしょう。組織委員会のおかげで‘放射線防護における革新の特別セッション’のためにIRPA YGNへ特別に時間が割り当てられました。IRPA YGNは、‘放射線防護において人工知能をどう位置づけるのか’若手演者やラウンドテーブルから幾つかのキーワードとともに質問を提起することにしました。本セッションへの参加に年齢制限はありませんので、お気軽にご参加ください。

この戦略的アジェンダは、IRPAウェブサイトのドキュメント・セクションにて入手可能です。



非電離放射線IRPAタスク・グループ (KLAUS HENRICHS, IRPA役員)

コロナ・クライシスが原因で、パリにて開催される予定だったタスク・グループ (TG) リーダー (アレクサンドル・レグロス、ジュリアン・モドロ) と担当役員 (クラウス・ヘンリックス) による長期計画会議は、TV会議へ変更されました。2019年に、加盟学会 (AS) によりTGメンバーへ推薦された専門家は、それぞれの専門領域についての情報と予定を策定するように頼まれました。これに基づき、作業文書である‘付託条項 (ToR) ’が作成され、これは現在、これまでのメール会議で応答した専門家間で議論のために回覧されています。

TGにより可決 (2020年3月) された後、この文書は作業プランの基盤となるでしょう。ASの期待に沿って (2016年アンケート)、電磁場だけでなく光放射に関する課題もカバーすることが既に決定されています。TGリーダーの意図は、ICNIRP勧告やIEEE-ICES標準 (線量限度) を含む健康リスクに関する知見の現状を一般公衆へ伝えることでした。

最終的に、推薦された専門家の半分未満しかメール会議にて応答がなかったことを別記しなければなりません。ASは、推薦が最新かどうか確認することになっています。



第3回放射線防護ワークショップ&ESNSA、2020年2月15日～18日 (M A M GOMAA, IRPAエジプト)

エジプト原子力科学応用学会 (ESNSA) の第12回国際会議が2020年2月15日から18日にかけてエジプト・ハルガダにて開催され、アフリカやヨーロッパから200名の参加者がありました。その参加者の大半は、エジプト原子力機関やエジプト大学からでした。プログラムには各日の招待講演、科学的セッション、幾つかのワークショップが含まれました。その中には、IRPA-エジプトで開催された第3回放射線防護ワークショップも含まれます。

第3回ワークショップでは、放射性物質の輸送、診断及び治療、規制、そして採掘の各領域における放射線防護の専門家によるプレゼンテーションが行われました。IAEAの放射線、放射性物質輸送及び廃棄物安全部の局長であるピーター・ジョンストーンは、TV会議を介して国際基本安全基準を紹介し、著者は放射線防護領域におけるUNSCEAR、ICRP、IAEA、ILO、そしてIRPAのような国際組織の役割について、またIRPA-エジプトの役割のハイライトを紹介しました。



IRPA初期メンバーであるオーストリア放射線防護学会 (ALEXANDER BRANDL, オーストリア放射線防護学会)

オーストリア放射線防護学会（ドイツ語表記：Österreichischer Verband für Strahlenschutz: ÖVS）は、オーストリアにおける保健物理/放射線防護領域の科学者、教育者、初期対応者、規制者、運用専門家の間をとりもつ非営利の専門家組織です。我々は、オーストリアにおける会員、国の決断を下す人々、そして一般公衆に対して50年以上にわたり奉仕し続けてきたことを誇りに思っています。我々の主な目的は、国内における放射線防護の機関と個人との間で協力とコラボレーションの動機づけとサポートをすることであり、さらに放射線に関するインシデントやアクシデントに対して効果的な緊急対応をサポートすることにあります。この趣旨で、我々は情報交換のためのプラットフォームを提供し、放射線防護における国内外の科学者、専門家、さらに組織の幅広いネットワークを維持することを目的としています。我々の取り組みには、分野における現状と最近の進展を議論する国際会議への参加するため、我々のメンバー、特に若手世代の会員をサポートすること、さらに専門会議やワークショップを組織することが含まれます。過去10年間にわたる我々の重点は、経験豊かな会員から次世代の放射線防護専門家へ移すことにより知識と技術の維持を図り続けることでした。学生や若手専門家への賞と給付が、放射線科学の勉強を続けるモチベーションのため、さらには学位取得後の若手専門家を保有するための刺激のために計画されました。ÖVS及び協会の個人会員は、ÖVSがオーストリアでの放射線防護に関する独立した専門家協会であるために、電離/非電離放射線源の使用と応用に関する政治的及び社会経済的な議論において我々の仕事と経験が評価されたように、この領域において国内外で素晴らしい評価を維持しています。

ÖVSは1965年に設立されたIRPAの初期メンバーです。1966年にÖVSは設立され、IRPAへ加盟しています。我々は、2016年に伝統的なウィーンの会議場にて、我々の会員とともにお祭りのような雰囲気の中で50周年を祝いました。この10年間にわたって、我々の会員は放射線防護の科学及び職種において増加し続けており、会員はオーストリアのみならず国際的なレベルで活動し続けています。彼らの関与は、彼らに高い評価を与え、IRPAの様々なリーダーシップ・ポジションへ選出されることとなりました。元及び現会員のうち2名がIRPA会長を、3名がIRPA副会長を、3名がIRPA役員を務めてきました。彼らはインフォメーションやアウトリーチを介してIRPAをサポートし続けています。図1は、ウィーン国際センターで行われたIAEA会議の際にIRPAのポスターの前に立つ元IRPA会長及び副会長であるR・ツアルウィンスキー氏、IRPA役員であるA・ヘフナー氏とÖVS役員であるF・カブルト氏を示しています。他のメンバーは、IRPAの活動と取り組みにおいて定期的に関与し、あるいは関与してきており、IRPAワーキンググループやタスク・グループに貢献し、IRPAによる文書の流布やアンケートにおけるフィードバックやコメントを提供しています。

我々の会員及びかれらの国際的な放射線防護コミュニティへの貢献による尽力は、1996年ウィーンにて開催されたIRPA-9でのÖVSへの賞授与により認められました。ÖVSは、ウィーンのホフバークで開催されたIRPA-9に対するIRPAのリーダーシップ、IRPA加盟学会の代表、さらに国際的な講演者と参加者を歓迎できたことを光栄に思っています。我々はその会議の圧倒的な成功は、ハードワーク、専門家としての誠実さ、会員個人の関与を証明するものであると確信しています。

我々は、次世代の放射線防護専門家へのサポートが、私たちの分野の専門知識を維持するために重要であることを早くに認められたことを誇りに思います。1981年には既に、ÖVSは若手研究者と専門家へむけた賞のコンペティションを開始し、電離/非電離放射線源の責任ある利用とシステムティック・スタディにおける初期キャリアの成果を報いてきました。これまでにŽakovsky賞は24回授与されました。実際に、F・カブルト（図1）は、ジュニアメンバーを職業にとどめるといふ我々の努力がある程度成功していることを示している最近の受賞者の一人です。初期のŽakovsky賞は、放射線防護における学生を支援するために2002年のKonrad-Mück奨学金により供給されました。この奨学金は、初めに11名の学生へ授与されました。加えて、ÖVSは同様に、海外機関における研究論文もしくは学位論文の一部を指導するために他のヨーロッパの国々との学生の研究交流を支援しています。しかしながら最も重要なことは、我々は放射線防護専門家の国際的なネットワーク統合のために若手科学者及び専門家へ向けた機会を供給することを目的としていることです。我々は常に、IRPA国際会議やIRPA地域会議で実施される若手研究者及び専門家への賞コンペティションにおける参加を含む、様々な会議やワークショップへのジュニアメンバーの参加に伴う旅費及び参加費の提供者です。図2には、IRPA地域会議において賞コンペティションへ参加したオーストリア人が、他の参加者に自己紹介をしているところを示しています。

協力やコラボレーション、情報交換を促進するための我々の目的の支援において、我々は会員へ向けた定期的な会議を開催します。春と秋の会議の間の年2回、我々は放射線防護におけるトピックを紹介し議論するために国内外の講演者を招待しています。これらの会議は、適切な情報を会員へ提供することだけでなく、会議プログラムの間に講演者との参加者との情報交換を可能にすることが意図されていました。定期的ではなく、しばしば他のヨーロッパの学会とコラボレーションして我々は大きな会議を共同開催しています。これらは地域に限局しているため、幾つかの大きな国際会議や地域会議よりも会員が参加しやすいものです。図3は、オーストリアのバーデンでÖVSとSwiss-German Fachverband für Strahlenschutz (FS) で共同開催された一週間にわたる会議への参加者を示しています。

我々の会員は、科学及び教育、政府組織もしくは規制機関の専門家であり、初期対応組織もしくは免許を持った労働者のためのコンサルタントでもあります。彼らの経験と専門知識は、オーストリアの放射線防護専門家の資金の重要な部分を集約的に包含しています。それゆえにÖVSは、我々の職業に関連した問題におけるコンサルタント及び重要なパートナーとして奉仕しています。我々のウェブサイト及び刊行物を介して、一般公衆への教育と情報提供の目的、さらに我々の会員が助けた放射線防護に関するドラフト、レビュー、新規国内法の改訂、提言がご覧になれます。国際的には、我々のワーキンググループや個人会員が放射線防護規格及びガイドラインの発展と改善を支援しています。

まとめると、ÖVSは電離/非電離放射線の使用と応用に関係した幅広い職業的及び専門的背景における経験と専門知識を提供する会員が属する独立した専門家組織です。個人会員及び関係者は、国内外からその専門知識、誠実さ、個人雇用を認められています。50年以上にわたり、オーストリアの一般市民と意思決定者に卓越したサービスを提供してきました。次世代の放射線防護専門家を動機づけし、支援するための我々のイニシアチブは、この伝統が少なくとも将来にわたり継承されることを願います。



IRPA初期メンバーであるオーストリア放射線防護学会 (ALEXANDER BRANDL, オーストリア放射線防護学会)



図1：元IRPA会長及び副会長のR・ツアルウィンスキー氏（中央）、IRPA役員であるA・ヘフナー氏（右）とÖVS役員であるF・カブルト氏（左）がIAEA会議においてIRPAのポスター展示前に立つ様子



図2：IRPA地域会議の際の若手研究者及び専門家への賞コンペティションに対するÖVS代表者であるL・イエーガートーファー氏（右から3番目）と、他の国際的な参加者たち



図3：オーストリアのバーデンでÖVSとFSにより共同開催された会議の参加者たち